

男女共同参画社会をめざして

# ジェンダーってなに？

2



## 発刊にあたり



豊田市長 鈴木公平

男女共同参画社会の実現は、少子高齢時代を乗り切るための重要課題として国において位置づけられています。このことは、すべての人が女性、男性の区別なく、一人の人間としていきいきと生活を送ることができ、お互いに尊重し、助け合っていく社会の実現を意味します。

豊田市においても、男女共同参画社会の重要性を考慮し、各種施策に取り組んでおります。特に、少子化対策への取り組みは欠かすことのできないものです。男女が対等なパートナーとして支え合い、子どもたちを育むことが重要と考えています。

活力あるまちの構築のためには、子どもたちの健やかな成長が不可欠です。子どもたちがのびのびと育ち、安心して生活ができるように、男女共同参画社会を共に築いていきませんか。

女性と男性の関わりを分かりやすく理解していただくために、平成14年3月に「ジェンダーってなに？」と題し、啓発漫画を作成し、各方面からご支持をいただきました。

今回、第2弾として「ジェンダーってなに？2」を新たに作成しました。身近な話題をテーマにしておりますので、家庭や職場での会話のきっかけにしていいただければ幸いです。

平成16年3月

**さあ、皆さんも一緒に男女共同参画社会を目指しませんか。**



でも、いいんじゃない、  
第二の人生私も  
負けないように  
しなくっちゃ。

ふふふ、やる気満々ね。  
なんだか私のほうが  
置いていかれそう。



いつそのこと  
蕎麦屋でも  
やるか！



あら、お蕎麦  
だけといわずに  
いろんな手料理が  
食べたいわあ。

さ、そうと決まれば  
練習練習。

毎週火曜日  
はそばの日  
だー！



## ここがポイント



皆さんは『生活的自立』という言葉をご存知でしょうか？炊事・洗濯・買物といった生きるために必要なことが自分でできるかどうかということを目指す言葉です。これには自分の生活をよりよく生きるための情報を自分で見つけたり、自ら参加したりと言ったようなことも含まれます。簡単に言えば、一人で生活ができて、かつ趣味や生きがいを持って生きられるかということですね。一般的に男性はこの『生活的自立度』が低いといわれています。それはなぜでしょうか？答えは簡単。やったことが無いからです。実はここにもジェンダーが深く関わっています。従来の社会は「男は仕事・女は家庭」と性別によってその役割をはっきり分けてきたために一生懸命仕事一途に頑張ってきた人ほど、この生活的自立度は低いといえます。退職後、自分の生活能力の無さは深刻な問題となって本人に跳ね返ってきます。その結果として、家の中に居場所が見つからない、何をしたいのかわからない、といった心の悩みを抱える人もいます。平均寿命は延び、退職後20年は生きることになります。できれば健康でいきいきと生活したいですね。最近は生涯学習の機会として、交流館などで開催される講座も夜間や土日など仕事を持っている人でも参加できるものや男性が参加できるものがどんどん増えています。男性も現役時代から積極的に参加しておけば、きっと今回のように第二の人生を自分らしく生きられると思います。

